

# 東京大学 モビリティ・イノベーション連携研究機構 Mobility Innovation Collaborative Research Organization (UTmobl)



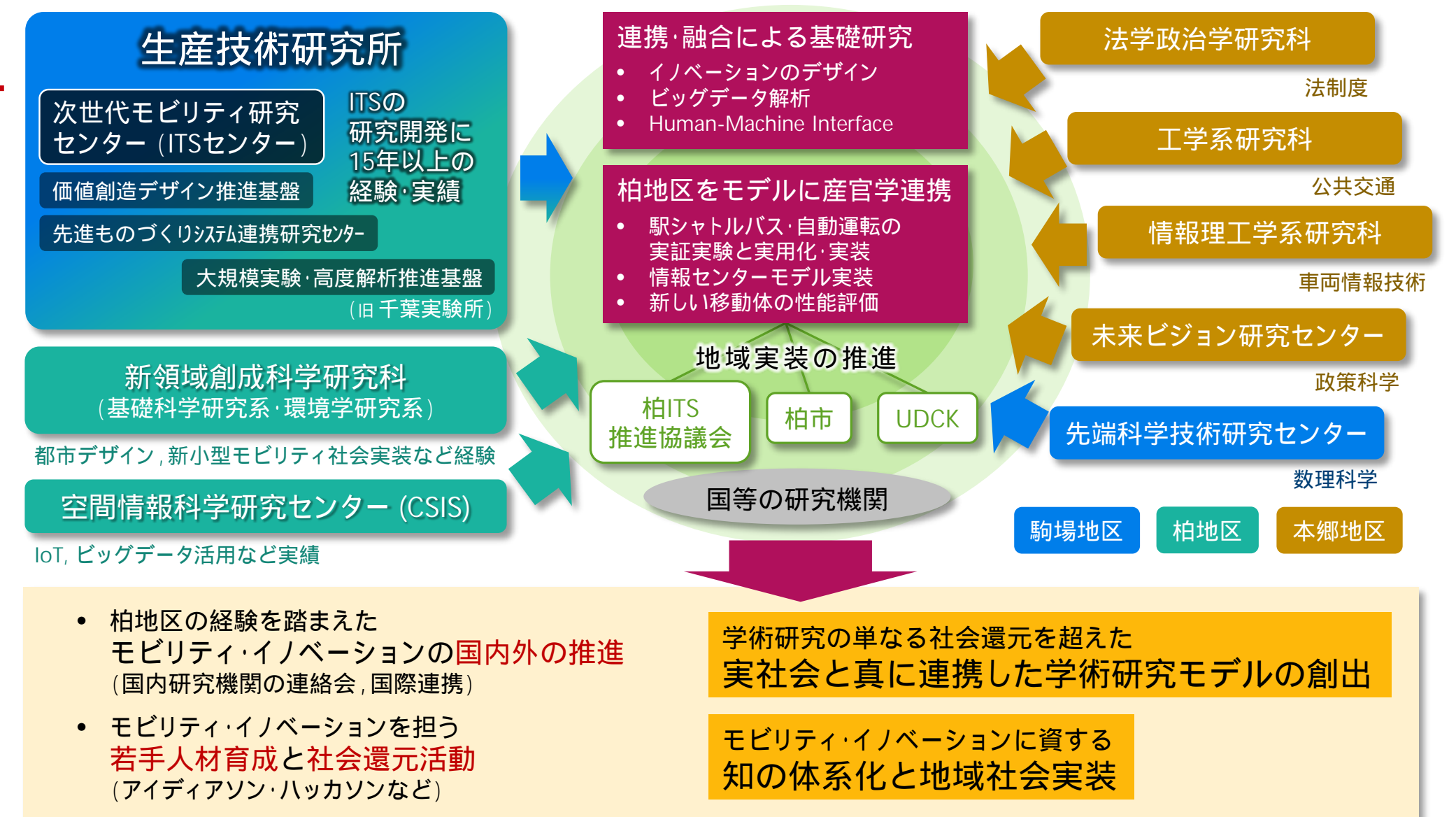
<http://www.its.iis.u-tokyo.ac.jp/utmobl/>

## 設立目的と組織

設置期間は、2018年7月から2028年3月まで 機構長：須田義大教授(生産技術研究所)

自動運転を中心とした革新的なモビリティ研究の最先端かつ総合的な研究組織体制を構築するため、**生産技術研究所**、**新領域創成科学研究科**、**空間情報科学研究センター(CSIS)**の3部局により、部局横断型の連携研究機構として、2018年7月1日に新設。さらに、2019年7月1日より、**法学政治学研究科**、**工学系研究科**、**情報理工学系研究科**、**未来ビジョン研究センター**、**先端科学技術研究センター**

の5部局を加えた8部局体制に拡大し、文理融合による研究体制をさらに強化。学内8部局が連携してイノベーション・デザイン、ビッグデータ解析、ヒューマンマシンインターフェースなどの基礎研究を推進すると共に、柏地区で自動運転バスの営業運行実証実験に取り組むなど、学の連携・融合によるモビリティ・イノベーションに資する知の体系化と産官学連携による地域社会実装を推進します。



## 主な活動

### 8部局連携による基礎研究の推進

1. イノベーションのデザイン
2. ビッグデータ解析
3. Human-Machine Interface など

### 柏地区を実践の場とした産官学連携の推進

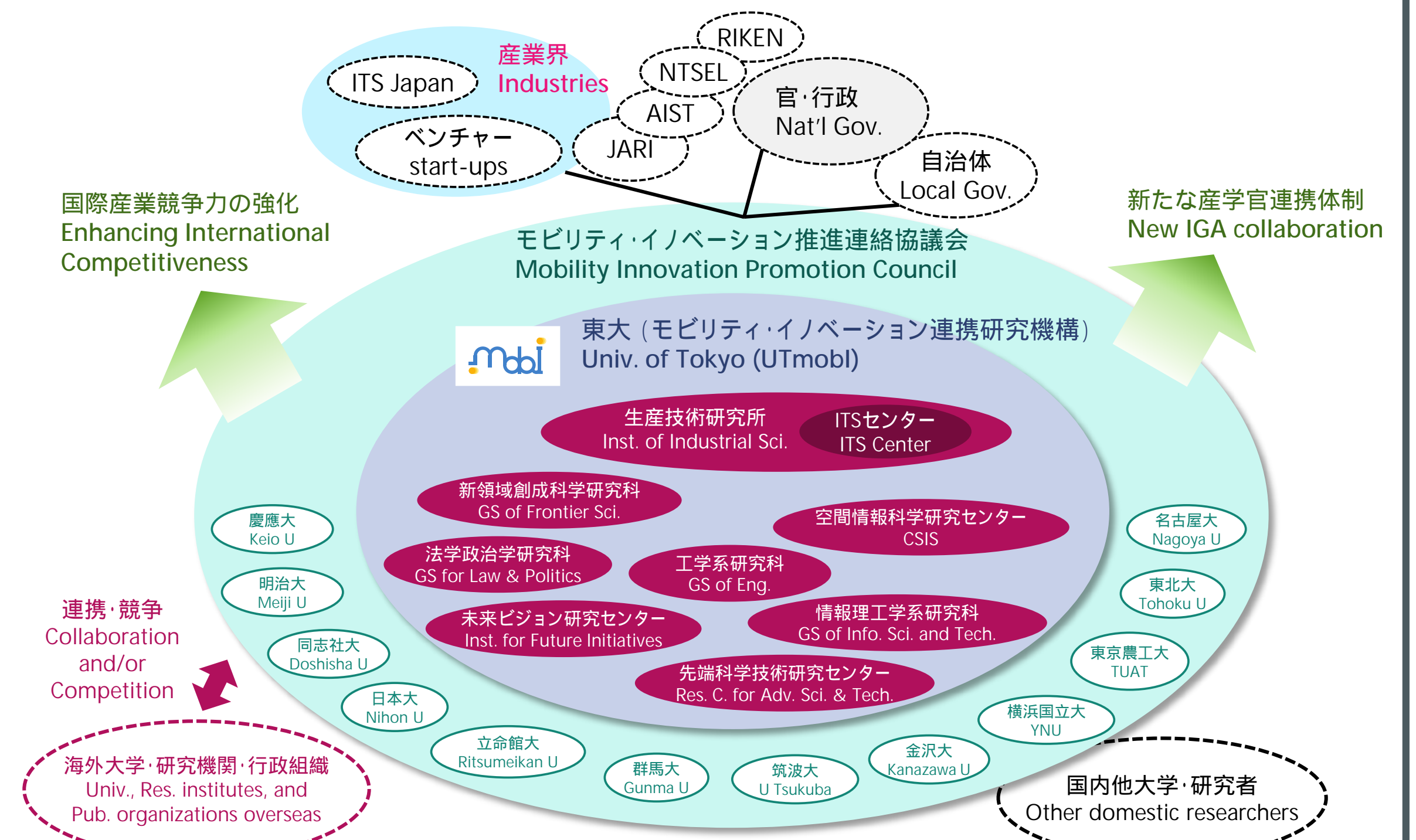
1. 柏の葉キャンパス駅と柏キャンパス間シャトルバスの自動運転・実証実験と実用化・実装
2. ITS情報センターモデルの地域実装
3. 自動運転機能を搭載する新しい移動体の性能評価 など



## 知の集約・国内・国際連携の模索

下記を総合したモビリティ・イノベーション推進連絡協議会を発足させ、各国内大学・公的研究機関・研究者との多角的な情報交換を促進します。

1. 「モビリティ・イノベーション推進連絡協議会」(2018年3月発足、2019年7月時点で13大学14センター/ユニットが参加)
2. 「自動走行システムの社会的影響に関する検討会」(情報通信、サイバーセキュリティ、機械力学制御、都市計画、技術経営、刑法、民事手続法、教育学、公共経済、文化人類学等の有識者らで構成)
3. 産業技術総合研究所(AIST)、日本自動車研究所(JARI)、交通安全環境研究所(NTSEL)、理化学研究所(RIKEN)



## 受託事業・その他の活動

1. 自動運転による交通事故低減等へのインパクトに関する研究 (2018-2020年度: SIP第2期自動運転(システムとサービスの拡張))
2. 自動運転に係わる海外研究機関との共同研究の推進に向けた連携体制の構築(2019-2022年度: SIP第2期自動運転(システムとサービスの拡張))
3. (公社)自動車技術会 自動運転AIチャレンジ(2019年3月開催)の後援
4. 「自動運転と法制度勉強会」を理化学研究所AIPセンターと共同推進、など

東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構(UTmobl)は、2020年5月に日本自動車研究所(JARI)、2021年3月に産業技術総合研究所(AIST) 情報・人間工学領域と協定を締結しました。この協定締結により、3組織は一層の連携をはかり、モビリティ・サービスの創出と社会実装を促進させます。

モビリティ・イノベーションに資する知の体系化と地域社会実装の推進  
学の連携・融合により学術研究の単なる社会還元を超えた実社会と真に連携した学術研究モデルの創出

